

# 皆既月食、色が毎回違うのはなぜ？

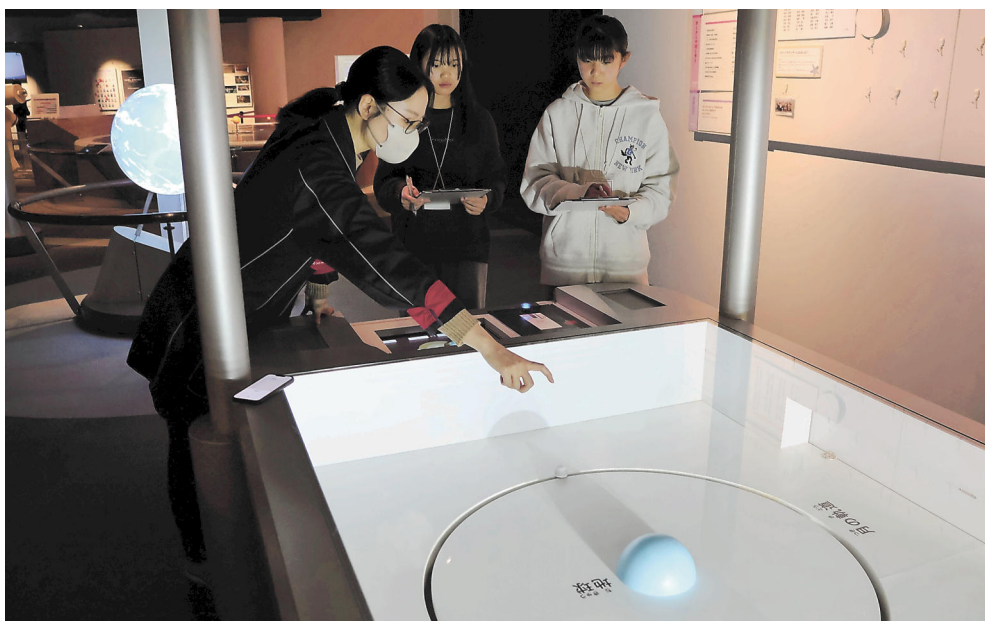
## ちり多 少ない▼暗い赤 ▼明るい赤

皆既月食を取材したことも記者の宮城県富谷市成田小6年の本間美羽さん(12)と鈴木優日子さん(12)は2月26日、仙台市青葉区の仙台市天文台を訪れ、学芸員の郷古由規さん(36)に月食の仕組みや月が赤くなる理由を質問しました。

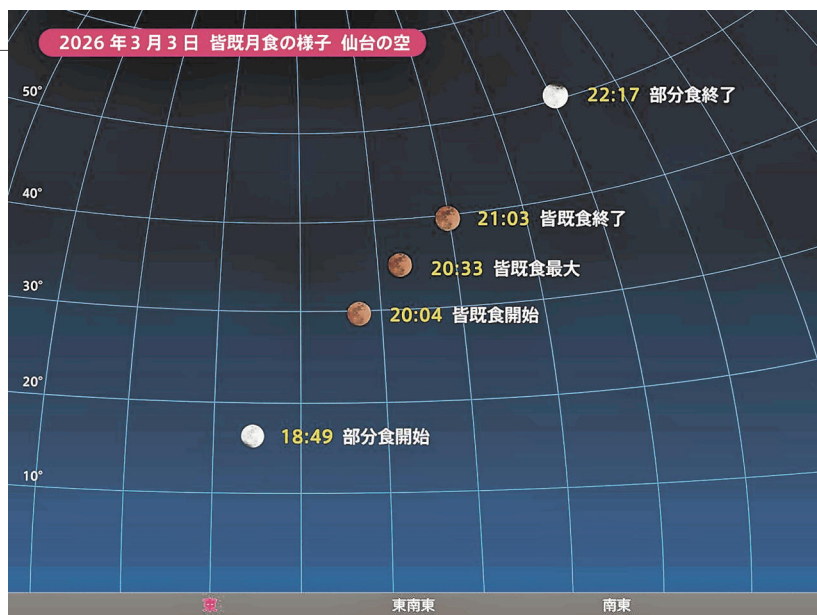
(1面に関連記事)

郷古さんは太陽と地球と月の位置関係が分かる模型を使い、月が地球の影に入り込む様子を再現しました。子ども記者は「どのくらいの頻度で起こりますか」と質問。郷古さんは「平均すると数年に1回です。前は昨年9月、次回は2029年で

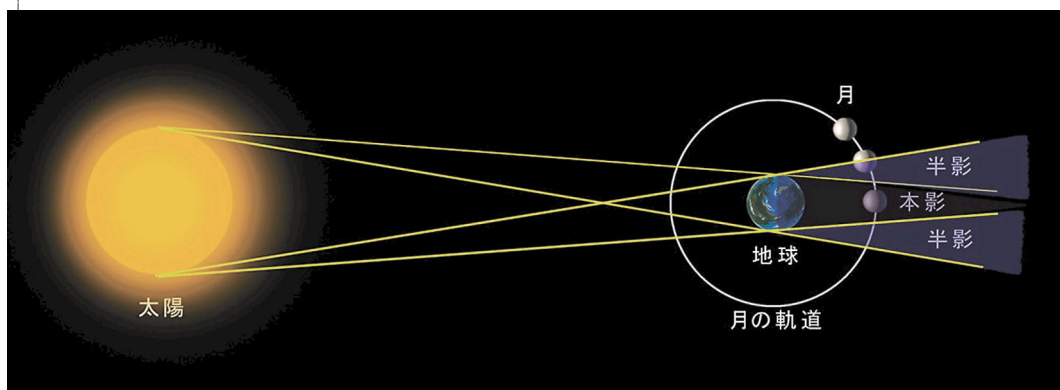
す」と説明しました。郷古さんは青い光が大気中で散らばり、赤い光だけが月に届く仕組みも解説。「過去の写真を見ると、色が毎回違うのはなぜですか」という問いには「いくつか理由はありますが、大気中のちりの量によっても見え方が変わります。ちりが多いと暗い赤、少ないと明るい赤になりやすいです」と答えました。子ども記者は皆既月食の観察を楽しみにしていましたが、あいにくの雪でした。「3年後は映像ではなく直接観察したい」と口をそろえました。



学芸員の郷古さん(左)の説明を聞く子ども記者  
2月26日、仙台市天文台



④ 天気が良ければ仙台市で観察できた皆既月食の様子  
⑤ 皆既月食のイメージ図。半影の位置は部分月食、本影に入ると皆既月食になる(ともに仙台市天文台提供)



## 取材を終えて

### 今度は皆既日食を

### 心に残った赤い光



成田小6年 鈴木優日子さん

皆既月食を見るのは初めてでした。太陽の光のうち赤い光だけが大気を通して、月を照らすことを学びました。スライドに映った皆既月食は「明るめの赤だった」と学芸員さんに聞き、今回は地球上のちりが少なかつたのかと思いました。月食の仕組みを事前に調べたことで、より楽しく観察できました。今度は皆既日食や流れ星も見たいです。



成田小6年 本間美羽さん

皆既月食を見て、月が真っ暗になるのではなく、赤っぽく見えることが心に残りました。赤く見えるのは、さまざまな色が混ざっている太陽の光が大気を通るとき、赤い光だけが残るからだとなりました。実際に見られませんでした。特別なことが空で起きていたと思うと、すごく興味深いなと感じました。次はぜひ自分の目で観察したいです。